

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500483
法人名	株式会社 松寿
事業所名	グループホーム 松寿苑 (ユニット名 洋棟 )
所在地	福岡県大川市大字本木室1005-8
自己評価作成日	平成24年10月15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、残存機能を活かしながら毎日の生活を送って頂けるように支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は木工業を営んでいた工場と邸宅を改造した、和風棟と洋風棟に分かれた2ユニットである。住み慣れた地域で「居場所」を確保したいという管理者の強い思いから、前経営者から引き継いで始めたホームである。和風棟には畳や襖・炬燵を、洋風棟には廊下を広く、玄関には木製のテーブルを設置しそれぞれの特色を活かしている。利用者が「地域と共に自分らしく笑顔で安心して暮らせるわが家」の理念のもと、暖かい雰囲気の中で職員と共に過ごせるように取り組んでいる。地域のなかで利用者の「生活の場」の提供者としての役割を実践しているホームである。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成24年11月12日

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本として、玄関・リビング・事務所の見える所に理念を掲示し、入居者が安心して暮らせるに努めている。	事業所の理念である「地域と共に自分らしく安全に楽しく過ごせるわが家」を職員全員が理解して毎日の生活のなかで実践している。朝礼や引継ぎでは職員間で意識強化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への参加ができていない。	近隣の住宅が少ない環境からなかなか地域との関わりがとりにくい中で、周辺の散歩では野菜や果物をいただくこともある。地域の障害者施設との関わりや、近隣の高校生のアルバイトを受け入れ、地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、入居者の状況、苑の状況等の報告を行い、職員の質の向上につながるように努めている。	2ヶ月に一回の会議には、行政職員、コミュニティセンター職員、民間企業代表、民生委員、家族代表、職員が参加している。行事報告や意見交換を行って事業所のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等をしたり、部屋の空き状況等を知らせたりしている。また、運営推進会議に参加してもらっている。	利用者が地域のなかで安心して暮らし続けるために市町村との連携を大切にしている。日頃からいつでも相談できる体制や、報告できる体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止について、会議や申し送り時に指導を行っている。	身体拘束をしないケアの実践への取り組みには全職員が理解し、取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみとし、和風棟と洋風棟の利用者の出入りは自由であり、開放感がみられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、会議にて勉強したり、言葉の虐待もあることを知ってもらい防止に努めている。また、体に小さな傷があった場合も上席者に報告をするように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用はないが、研修への参加を促しこのような制度があることへの理解できるように努めている。	司法書士が後見人になっている1名の利用者が制度を利用している。職員は制度についての学ぶ機会があれば参加しているが、現状では十分に理解するまでには至っていない。	職員は制度について理解し、利用者や家族がいつでも安心して制度を理解し活用ができる体制作りが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、理解を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置したり、面会時に会話をして意見等を反映できるような工夫をしている。	意見箱を設置しているが利用者はいない。家族の訪問時の近況報告等での何気ない家族の言動や、職員からの声かけで意見や要望の把握に努めている。管理者にも伝達し、職員全員で運営に活かせるように取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、申し送り時、普段の会話の中で意見、要望をその都度聞き反映できるように努めている。	管理者と職員は、毎日の活動の中で関係性を築いている。職員は要望や意見が自由に発信できており、管理者はいつでも対応できる体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の身体状況の把握に努め、楽しく仕事ができ、また質の向上につながるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関して基準は設けていない。また職員が笑顔で仕事ができるように、其々の個性を活かせるように努めている。	採用に関しては年齢や性別、経験等は対象とせず介護の適性を重視して採用している。勤務体制や研修参加、資格取得における支援体制ができています。採用後は、職員の個性を生かして生き生きと活動できる体制ができています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員との面談、入居者への声かけ等気になる部分があった時は、その都度注意をしている。	管理者は、職員に対して人権や尊厳についての教育を行っている。毎日の接遇のなかでも継続的な教育や啓発に取り組み、日常的に職員の意識化へ取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じ研修等への参加をうながしている。本人からの申し出には出来る限り参加できるように勤務調整等を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の集まりが年に一回あり、ホームの見学会も行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との普段の会話、毎日の状態観察、入居者との毎日の関わりの中から感じ取りながら関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の家族が訴え易い環境を作り、家族ともコミュニケーションをとるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人の意見、気持を第一に考え、家族と話し合い、より良い支援ができるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽が出せるような関係づくりに努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時、日頃の様子を伝え、家族の協力を得ながら支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行ったりすることは難しいが、会話で忘れないように努めている。また、馴染みの場所に行けるように家族への協力をお願いしている。	利用開始前の馴染みの関係性が途切れないように取り組んでいる。日々の言動の中から思いを汲み取り家族にも相談し、時には家族と一緒に思い思いの場所へ行けるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人で過ごしたい時もあられる為、状況に応じて声かけ、見守りを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談に応じられることを伝え、他の施設、病院に移られた時は、面会をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や様子から、入居者本人の意向をくみ取り、希望、要望に沿えるように努めている。	利用開始前に本人や家族に一日の過ごし方や要望を聞いて把握している。又、日常生活の中から本人の意向を把握し、意思疎通の困難な場合は本人の動作や表情等から汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人から伺ったり、家族から聞いたりしながら把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック、業務日報を活用し、職員全員が把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、家族、主治医の意見を基に、話し合いをしながら介護計画を作成している。	本人の意向や家族の要望等は、家族が訪問した時に聞き取り利用者一人ひとりの介護計画やサービス内容についても全職員と関係者間で検討し介護計画に反映している。モニタリングは、状況変化のない方は半年に1回見直しをしている。心身状況変化時はその都度検討し介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記入し、職員で目を通して。会議で話し合いを行い情報の共有、実践、介護計画の見直し等を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向を第一に考え、サービスに取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人からの要望があれば支援出来るように努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、出来る限り家族にお願いをしている。出来ない時は、職員にて行っている。車いすの方には、訪問して頂ける病院に依頼している。	利用開始にともないかかりつけ医を変更することなく、本人及び家族の希望を大切にしている。訪問診療以外は家族対応である。受診結果についてはその都度報告を受けている。家族が同行できない時や緊急時の対応は職員が受診に同行し、受診結果を家族へ報告説明している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時、その都度相談、連絡が取れるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診で来られる病院との関係はとれているが、他のはできていない。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までで看取りはないが、家族の要望がある場合は、家族、医療関係と連携をとり支援していけるようにしている。	看取りの経験はないが、利用開始時に家族へ重度化した時の終末期の説明を行っている。家族の要望がある場合は、家族の宿泊準備もできている。全職員で情報を共有しながら、家族、主治医と連携を密にし支援に努める態勢ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を身につけるまでは至っていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網、マニュアルは作成しているが、地域との連携はできていない。	年2回の防災訓練を行っている。地域住民への参加を声かけしている。全職員は避難経路や緊急連絡網等を身につけている。消防署より備品不備の指示を受けているが、その後、改善報告がされている。災害時に備え、水、食品、卓上ガスコンロ、毛布等準備をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人1人が心がけているが、気になる言葉かけを見たときは、その都度注意をしている。	職員一人ひとりが言葉使いに気をつけ、その時の状況に応じた声かけを柔軟にしている。気になる言葉使いの時は職員同士でもその都度注意し合っている。特に排泄においては、本人の人格を尊重し、周囲に気づかれぬようにさりげなく声かけを行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向や気持ちを第一に考え、自己決定ができるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを第一に、それに沿えるように支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿えるように支援している。また、決まった美容室がない方には、訪問理容にて対応をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや片づけを、声かけをしながら行っている。	食材によるが、下拵えを職員と一緒にしたり、箸を配ったり、片づけ等、出来ることは声かけながら一緒に行っている。食事形態は、ミキサー食、刻み食等個々の利用者に合わせて提供している。食事は職員も一緒に同じものを楽しみながら摂っている。献立はその日の食材を見て調理しているが、利用者の要望を取り入れて調理することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残している。水分を取られない方には好まれる物を用意している。食事量に関して、カロリー制限等ある方には、こんにゃく飯を炊く等の工夫をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。嫌がられる方には、声かけを実施。出来ない方は職員にて対応をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、声かけ、誘導を行う。出来る限り日中トイレに座って頂くようにしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や動作や時間を見て声かけ、トイレ誘導を行っている。退院時、紙おむつ使用だったが徐々に布パンツに移行した利用者が2名いて、排泄への自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、マッサージを行ったり、食事に工夫をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人からの訴えや尿、便で汚染時に入れるようにしている。	入浴は週2回で対応しているが、本人の要望に合わせて入浴対応できるようにしている。また、入浴を好まれない方には本人の体調等を見ながら介助職員を変えたり時間をずらしたり、声かけの工夫もしている。入浴しない時は足浴や清拭等で対応し、無理強いはいしていない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整等を行ったり、今までの生活の習慣を取り入れたり、気持ちよく眠れるように工夫をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を作成したり、薬バッグをおいて職員が分かり易いように工夫をしている。また、薬の変更があった場合、全職員が把握できるように業務日誌に記入している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや気分転換の支援は出来ている。酒、たばこは家族の意向、薬の関係でだしていない。ノンアルコールビール等を行事事の時に利用している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物を実施。	天気の良い時は、ほぼ毎日希望者は散歩を行っている。日常の買い物に利用者が同行する時もある。また、季節のお花見等のドライブや、空港見学や三池港等へも外出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを事務所に預かっている。散歩、買い物に行かれる時に使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望がある時、家族へ電話をかけたりできるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩に出た時に摘んできた季節の花を飾ったり、壁に入居者が作成した飾り物等を貼っている。	共有空間の窓からは明るい日差しが差し込んでいる。散歩に出た時に摘んできた花をテーブルに飾ったり、利用者が作成した貼り絵や折り鶴の大作等を壁に貼ってある。また、廊下には毛筆で書いた利用者の今年の目標等も掲示している。ソファに座ってテレビを見たり、和棟では、コタツに入っている人等、それぞれが寛げるようになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、椅子を置き、好きな場所で過ごして頂けるように工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物等を持ってきて頂くように家族にお願いをする。お位牌等も持って来られ、自室にてお参りをして頂けるように支援をしている。	居室は一人ひとりの生活や好みに合わせ量の部屋や床の部屋がある。ベッドやタンス、布団は本人の使い慣れた物、家族の好きな物が持ち込まれている。また、壁には利用者が安心できるように家族の写真や作品等が飾られてある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に合わせて、出来ることは本人ですて頂くように支援を行っている。		